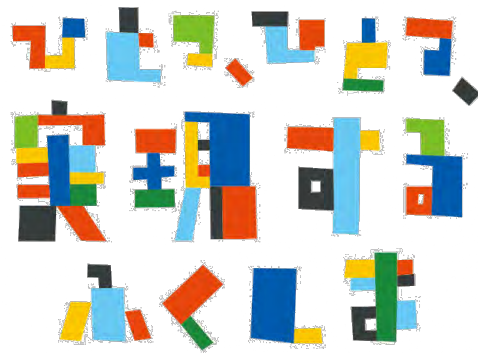




●県のスローガン

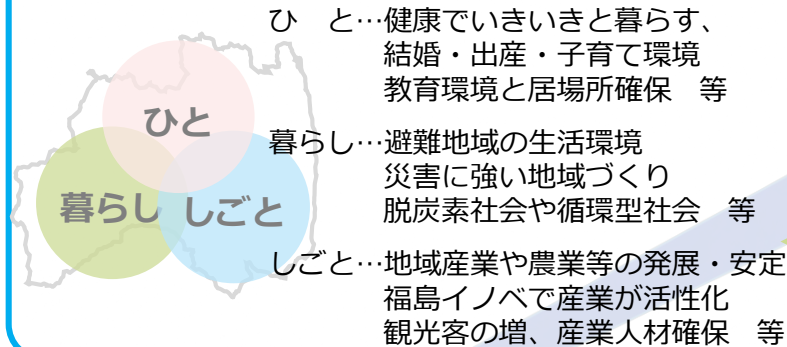
ひとつ、ひとつ、
実現する ふくしま

P D C A マネジメントサイクルの確実な実行や、根拠に基づく政策立案 (E B P M) の考え方を重視した事業の企画立案など課題を一つ一つ解決し将来の姿を目指す

令和12 (2030) 年度

<将来の姿>

「ひと」「暮らし」「しごと」
が調和しながらシンカ(深化、進化、
新化)する豊かな社会



未曾有の複合災害からの復興と急激な人口減少とに直面する
福島はSDG sそのもの

30年先の
将来の姿

●基本目標

やさしさ、すこやかさ、おいしさ
あふれるふくしまを
共に創り、つなぐ

●大事にしたい視点・行動規範



<ふくしまの現在地>

- ▶ 復興・再生は着実に進展
- ▶ 一方、避難地域の再生や風評・風化など課題は山積
- ▶ また、人口減少も大きな課題となっている
- ▶ 加えて、自然災害、新型コロナウイルス感染症などの幾重もの困難に見舞われている

県民の皆さんの意見 (30年先の将来を見据え)

- ▶ 総合計画審議会からの意見
- ▶ 市町村からの意見
- ▶ 対話型ワークショップの意見
- ▶ 地域懇談会の意見
- ▶ 県民世論調査・アンケート

新しい福島県総合計画

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015b/>



●県づくりの理念 (将来の姿の実現に向かう根本的な考え方)

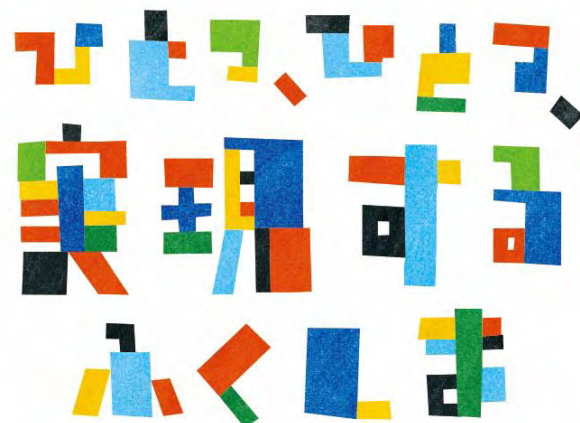
- 多様性に寛容で差別のない共に助け合う地域社会(県)づくり…やさしさ
- 変化や危機にしなやかで強靱な地域社会(県)づくり…すこやかさ
- 魅力を見いだし育み伸ばす地域社会(県)づくり…おいしさ



複雑な課題を抱える福島県がどのような姿を目指すのか、
福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めながら、
普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すため、
SDG sの17の目標ごとの視点で描く

4 質の高い教育をみんなに ●知識や技能のみならず、自ら考え課題解決できる子どもたちが育っている ●震災の記憶の継承や復興への取組を基に、郷土への理解が進んでいる ●生涯にわたって学び続けることができる環境が整っている など	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに ●再生可能エネルギー関連産業の育成・集積が進み、一大産業集積地となっている ●水素エネルギーの社会実証が進み、国内外の最先端モデルとなっている など	17 パートナースhipで目標を達成しよう ●住民、企業、NPO法人や行政が連携し、住民主役のまちづくりが行われている ●市町村とともに、効率的・効果的な行政サービスが行われている など
---	---	---

SDG sの視点 (例)



「はじめよう」から、
「実現する」へ。
福島県の新スローガンです。

震災から10年を機に、福島県は、「ふくしまからはじめよう。」からのバトンを渡し、
新スローガンを策定しました。

「はじめる」から、「かなえる」へ。
ひとりひとりの力を重ね、それぞれの思いを繋ぎ、ともに、ひとつずつ、しっかりと、
カタチにし続けていこうと。

発行元

福島県 企画調整部 復興・総合計画課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

Tel 024-521-7109

E-mail fukkoukeikaku@pref.fukushima.lg.jp

福島県ウェブ

ふくしま復興ステーション

検索

* 本誌へのご意見等がございましたら、上記アドレスへお寄せください。

その他、復興情報等ご覧ください。